



# 志津南

## 8月号 news

志津南ホームページ  
http://shizu373.net

志津南学区の人口 (7/3 現在)  
世帯数 2,385 総人口 6,456 人  
発行  
志津南学区まちづくり協議会  
Tel(fax) 077-563-6206  
E-mail shizuminamimachi@gmail.com

### 事業実施に伴う会計処理説明

#### まず活動費支給の8団体に臨時会議で

3密に配慮して会議に臨む各グループ代表



志津南学区まちづくり協議会(高田憲一会長)は7月18日、臨時グループ会議をセンター会議室で開催しました。

この日はそのうち、まちづくり協議会が活動費を交付している8団体を対象に開催されました。会議ではそれぞれ、自己紹介の後、グループの制度や活動費の会計処理について説明しました。

臨時グループは、協議会

内(民生委員児童委員協議会など6団体)で構成されています。

協議会では、参画団体からの予算請求に対して、草津市からの地域一括交付金と協議会の自主財源を併せて交付しています。

地域一括交付金は、草津市から協議会に対して交付されるもので、協議会では予算調整会議にて参画団体の活動内容を鑑み弾力的に分配しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今年度の参画団体の事業が軒並み中止となっています。これから先の事業も、多くが中止になることが予想されます。

その結果、参画団体に対して交付された活動費は、多くが使われず、協議会に戻されることとなります。交付された活動費のうち、草津市からの地域一括交付金は、残金が発生した場合返金する必要があります。例年は、予定通り事業が行われるので返金手続きはありませんでしたが、今年度限り参画団体からの返金が予想されます。

協議会では、地域一括交付金を有効に活用するため、参画団体の活動状況を確認しながら、交付金と自主財源を再分配することなどを検討しています。

今回のグループ会議では、参画団体に求めている事業の報告書や活動費の報告に加えて、地域一括交付金の有効活用について説明しました。

その後の質疑応答では、

出席した参画団体から、活動費での交通費の取り扱いや、交付金と自主財源の割合についてなどの質問がありました。

#### イベント次々中止に

コロナウイルスの感染者数は増加の一途をたどり、収束のめどもなかなか立ちません。まちの通常の活動は再開されたものの、大きなイベントは安全確保が難しく、やむなく中止の決定に至るものが増えています。

#### ふれあいまつり



2017年のふれあい夏まつり風景

ふれあい推進委員会(山元泰宏委員長)は7月11日開催の委員会で、11月8日開催予定の「第23回志津南ふれあいまつり」について各委員から町内役員会での審議について報告を受けました。

協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じることが困難な状況下で、参加できない町



市長から感謝状を受け取る花澤さん

#### 花澤前会長に草津市から感謝状

まちづくり協議会前会長の花澤仁左エ門さん(現顧問)に感謝状が授与されました。

橋川草津市長から、本市の協働のまちづくりの推進に寄与され、その功績が顕著であったと表彰されたものです。

同じくまち協会長として、地域の課題解決に向け尽力された多大な功績に対し、連合会(中村繁樹会長)からも、感謝状が授与されました。

内会もあり中止を決定、3年続いている中止に落胆を隠せない委員会でした。

敬老会

例年、志津南小学校を会場にして開催されている、学区全体での敬老会イベントは新型コロナウイルス感染症

#### 防災フェス

昨年(2020年)に続き10月25日に計画していた防災フェスティバルは南消防署とも打ち合わせを重ねていましたが、最近のコロナ状況に鑑み、開催は難しいとの意見をいただき、中止の判断をしました。

症拡大防止のため中止します。

これに替わり、本年度は対象者全員に記念品を渡します。9月20日・21日の2日間に、社会福祉委員、民生委員児童委員などが手分けして担当区域の対象者宅を訪問し、手渡しされます。



# SOSプロジェクト いよいよスタート



協力店にのぼりを手渡す担当者

7月27日「志津南おかせりストリート」SOSプロジェクト

津南小学校PTAと協働して立ち上げたプロジェクト

プロジェクト

で8月31日までの登校日に実施します。このプロジェクトは、猛暑や炎天下での下校中に体調不良となった子どもが通学路沿いの協賛店舗・施設に助けを求めた場合、連絡を受けた学校の教職員が直ちに現場に急行し、保護者と連携しながら無事に帰宅できるようにするものです。プロジェクトの実施に向け、14の店舗・施設に依頼したところ、全てで「子どもたちの支えになれるならぜひ」と快く賛同いただきました。また、目印となるのぼり旗を届けた時には

すぐに店先や通学路沿いに立てていただきました。中には、店舗・施設でオリジナルのポスターを作り、来店者に見えるよう掲示してくださっている所もあり、この取り組みを積極的に応援していただいていることに心より感謝しています。通学路ではためく色鮮やかなのぼり旗を眺めながら笑顔で歩く子どもたちの様子が日々見られます。地域の皆様に温かく見守っていただいていることを感じながら、安心して学校に通ってほしいと願っています。

## 玄関に立派な花飾り

志津南小学校（水野晃校長）では、7月～11月の5か月間、南校舎の玄関に大きな花飾りが設置されることになりました。花の国づくり滋賀県協議会の事業で、南草津駅近くにある「フロリストなかむら」さんの協力のもと、将来を担う子どもたちや保護者、学校関係者に、花のある暮らしを提供することにより、花の重要性や価値観を育み、心の教育に寄与することを目的としています。



児童はもちろんです。職員も思わず声を上げるほど立派なものですよ。7月29日から8月

で8月31日までの登校日に実施します。このプロジェクトは、猛暑や炎天下での下校中に体調不良となった子どもが通学路沿いの協賛店舗・施設に助けを求めた場合、連絡を受けた学校の教職員が直ちに現場に急行し、保護者と連携しながら無事に帰宅できるようにするものです。プロジェクトの実施に向け、14の店舗・施設に依頼したところ、全てで「子どもたちの支えになれるならぜひ」と快く賛同いただきました。また、目印となるのぼり旗を届けた時には

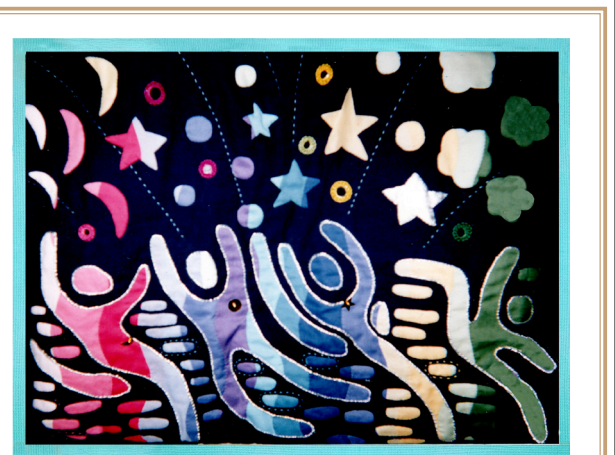
3日までの4日間は、個別懇談会が予定されています。来校された際には、花飾り

を見ていただき、心を和ませてください。ありがとうございます。



熱心に安全講習会

環境美化委員会（吉田繁樹委員長）は7月5日、草刈機等取扱安全講習会を開催しました。新型コロナウイルス禍により一旦中止となっていたものです。当初の申し込み者は42人でしたが、当日は55人が参加し、講師に渡邊安裕さん（若草一丁目）を招き、分かり易い解説と模範実技をしてもらいました。その後4グループに分かれ、調整池で環境美化ボランティアの協力を得て実技を体験しました。



逆アプリケ※  
宇宙



宙（そら）の内  
月・星・雪・花の精たちが、  
華麗で明るく元気に歌い踊り、  
笑顔としあわせを届けたくて日々頑張っている  
姿に勇気と愛があふれています！！

（創作手芸作家 三尾三紀子）

※ 通常のアプリケとは逆の方法で、重ねた布の上にデザインを描いて切り抜き、土台となる布にまつる技法。

## 夏の一斉清掃行われる

最後に使用後の機具の手入れの説明がありました。約2時間の講習会でした。



若草・岡本西地区の夏の「一斉清掃」が7月12日、地区内の公園や児童遊園などで行われました。梅雨の合間の曇り空の一斉清掃でしたが、参加者の協力で、刈り取られた雑草の小山が、町内のあちこちの集積場に数多く築かれました。

同地区は総戸数923軒、参加者は734人で、参加率は約80%でした。



## 宅地開発再開へ

4月15日号で紹介した若草交差点南西横（追分南8丁目）の宅地開発工事は、草津市との協議が継続したため、樹木が伐採されたまま中断されていました。7月13日から令和3年7月完成予定で工事が再開されました。

工事期間中、歩行者の方はご注意ください。



### コロナに負けずに活動再開

コロナ感染者が増える中、対策に配慮しながら、サークルなどの活動は徐々に再開し始めています。

#### 消毒徹底して送迎

志津南学区社会福祉協議会（上田恒章会長）は、4月から6月まで休止していた高齢者の送迎支援活動を7月から再開しました。写真。



#### 地域支え合い活動の一環として実施しており、7月は4人を送迎しました。写真。



転ボランティアはマスクを着用、利用者にはお迎え時に検温計で測定、マスク着用を徹底、終了時にはドアノブの消毒などを行い、安心・安全の地域福祉活動を推進しています。

帰りのバスツアーが実施できることやら！  
フレイル予防学ぶ



かがやきの丘地域サロン「なごみ会」（浅野謙一代表）は7月16日、3ヶ月ぶりに健康講座を開催しました。草津市長寿いきがい課の職



員による出前講座「健康寿命をのばすためにフレイルを予防しよう」を受けました。写真。  
フレイルとは健康と要介護の間の状態であるという

意味で、予防するには栄養・運動・社会参加の3要因が大切であると学びました。「久しぶり」「変わりなかつた？」と声をかけあい、再会を喜び合いました。

#### 二部制で懐メロ再開

地域サロン「懐メロを歌う会」（村井教夫代表）は新型コロナウイルスのため3月から6月まで活動を自粛していましたが、7月16日から再開しました。写真。  
これまでは、一回1時間、30人以上が参加して行って

みんながもっと笑顔になれますように！  
今年度は新型コロナウイルスの影響で色々な行事が中止に追い込まれる中、消毒対策をとり例年のように七夕会には下校後の元気な子どもたちの声が部屋中に響いていました。

### たくさんつなごう 笹飾り

#### がんばって笹飾りを作る子どもたち



を聞いた後、みんなが笹飾りを作りました。お母さんと一緒にのりで星つなぎや三角つなぎをしたお友達。年の数よりはたくさんつなごう！というミッションが発令されましたが、みんな一生懸命がんばってたくさんつなごうことができました。

その他にも、お友達の手形を体にしたお祭り姫とひこ星や、天の川などたくさん飾りを作りました。それぞれ笹に飾りました。最後にプレゼントをもらい、笑顔のお友達。短冊に書いたみんなの願い事が叶って

いきましたが、今回から密を避けるため、一回30分、人数を20人以下に制限し、2部制にしてメンバーを入れ替えて同じプログラムを二回続けました。  
スタッフには、開始前と後、一回目・二回目の間に机や椅子の消毒、参加者の検温などを実施してもらいました。  
まだ、マスク着用で小声での合唱ですが、早く元のように、最後はアンコール曲を大きな声で歌うようになりたいものです。



#### まちゃんと



松谷みづ子 文  
司 修成 絵

夏に読んでほしい絵本を紹介。「まちゃんと」とは「もう少し」という意味の方言だそうです。

8月6日、広島で原爆に遭い、トマトをまちゃんと欲しがりながら死んでいった小さな女の子の物語。戦争という悲惨な、特に焼野原の街や人々を描いている作品なので心苦しくなりますが、昔話のようにやさしく淡々と語られた文と、何度も描き直されたであろう絵に、作家達の平和への想いがしっかりと込

められています。最後の一説「ほらここにいまも…」という言葉に、今の時代にもこれから先の未来にも語り継がれていってほしい、心に残る絵本だと感じています。

「ポイント」戦争や平和について語り合うきっかけに女の子がかわいいので、幼い子ども達にもあまり抵抗感なく読み聞かせできるかもです。戦争や平和について語り合えるきっかけとなれば幸いですね。（中西ひとみ）

子育てサークル若草おやこっこクラブ（山出聡子代表）は7月2日、七夕会を開催しました。お祭り姫とひこ星のパネルシアターを見て七夕のお話



#### 若草文庫でも七夕

若草文庫（林りよ子代表）とどんぐりクラブ（松本孝子代表）は7月1日、若草第三集会所に、小学生や親子連れ、スタッフも含め20人余りが集まり七夕会を楽



# 体も頭も動かして健幸に

### 映像を見ながら講師の話や受講生



「健幸音楽サロン」と題し、ロクハ荘から、音楽健康指導士の榎本一三さん、船倉恭子さんを講師にお招きしました。

映像を使ったストレッツをはじめ、「しわしわダンス」「あの町 この町 バスの町」「目で観て考えて」「ゆっくり伸び縮みストレッチ」など、盛り沢山なプログラムを披露していただきました。受講生は皆、気持ちよく身体を動かしたり、ダンスをしたり、終始伸び伸びと楽しみながら、参加していました。

やすらぎ学級第3回講座「くりセンター」で開催され、が7月22日、志津南まちづり学級生23人が参加しました。

## ◆空き巣被害

この学区内で、7月中旬に空き巣が連続発生しました。いずれも被害状況は未確認ですが、各ご家庭では十分注意をしてください。

空き巣が侵入口として選ぶのは、基本的にドアか窓だと言われています。二重窓や面格子を取り付けるなどの対策以外に、補助鍵の設置、防犯フィルムを貼るなどの対策も有効です。ダミーの防犯ステッカーを貼るだけでも、空き巣に心理的負荷を与えることはできるようです。



## ◆違法駐車

最近、町内に違法駐車が目立ちます。郵便局の前やまちづくりセンター周辺など、公共施設の近くだけでなく、町内の道路に駐車するのも違法です。他人の迷惑になるだけでなく、事故の原因となる場合があります。チョットだけだから、私だけなら...と、安易に考えず規則を守りましょう。犯罪や事故は、いつ、どこでどんな風に私たちの身に起こるか分かりません。ちょっとした心がけで被害の防止に繋がります。

したり、頭を使うゲームが出来て、とても楽しい時間が過ごせた」との声を多数聞きました。

「聞くことができ、講師も担当者も嬉しい思いでいっぱいです。」

「聞いたよ良かった」といった声もありました。先日の「Zoom」を使って「みませんか」はタイムリーな話題で内外の反響も大きく、別施設からの問い合わせや再度の実施を求める声もあり、この日の「グループライン」にも定員一杯の申し込みがありました。

13時〜16時  
▽志津南まちづくりセンターサロン  
**ごみ袋引換券  
9月末で無効**  
現在お持ちのごみ袋引換券は9月末で無効になります。  
10月1日からは新しい引換券に替わります。まだ引換券をお持ちの方は9月中旬にセンターで引き替えしてください。



志津南まちづくりセンターは7月9日、「せんか? サロン」第2弾として「グループライン」をテーマに吉田知津子さんを講師にパソコン研修を実施し、10人が参加しました。写真。

「グループライン 使ってみませんか」と題し、SNSの中でも最も利用者が多く、日本の人口の約67%が使っているとされる「ライン」をグループで使う方法にスポットを当てました。ラインは1対1で使うトクが人気ですが、複数人でグループを作って使うことで、複数人のビデオ会議などにも応用できます。更に「投票機能」や「日程調整」「あみだくじ」など、多人数で使うのに便利な機能など

パソンの駅  
▽パソコンについての相談  
▽8月25日(火)  
9月25日(金)

## 随想

### 思いのままに



私たちの生活圏に隣接する立命館大学びわこ・くさつキャンパスがあります。が、実際の大学のことをよくわかっていない人は意外と少ないのです。そこで私なりに、大学の創始者は誰か、生い立ちとはなぜ大学名が「立命」なのか、等々調べてみました。

## 立命館 その1

創設者は中川小十郎(京都府亀岡生まれ)であり、彼は元々京都法政学校を設立運営していたが、西園寺公望の文部大臣時代の秘書の関係で京都御苑内に私塾(立命館)を開いていた西園寺公望の承諾を得て、私立立命館大学に改称しその名を受け継ぐのです。(法政を立命に) その「立命」とは孟子の尽心章(じんしんしょう)に由来し「人の生死は天命で決められている。だから生きての間は学問をし続け天命を待つのが人生の本分である」という意味ですが、公望は譲る際に「目先の利益にとらわれず、高い志を立て生涯を通して学び社会を創ることがよりよく生きることに繋がる」と解釈し小十郎に名を譲ったのである。西園寺公望はご存じの12代・14代総理大臣であり、日本の将来を支える人づくりのため教育に情熱を打ち込んだ人でもあるのです。そして今は創始者ではなく「学祖西園寺公望」と言われております。

現在立命館大学は京都衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパスをはじめ6つのキャンパスで運営され、全学生数は約3万2千3百名、うちびわこ・くさつキャンパスは約1万3千5百名の方が、建学の精神「自由と清新」で、次の時代を担うため勉学に励んでいます。(T・A)